



▲食い気のある群れに当たるとダブルもしばしば
◀当日のトップは8尾



▲福徳丸は6人限定の予約乗合で出船
◀当日のタナは底から2〜3メートル前後



★当日最大は41センチにとどまったが、今年の5月は50〜55センチ、重量1〜1.5キロ級が頻繁に上がっている



★釣り場は天竜川の沖合から御前崎の手前くらいまでを状況で攻め分ける

福田沖のアカムツ仕掛け

ホタルイカエサの付け方



① ▲支給エサはホタルイカ。ハリ先を胴の先端付近に刺す
▼ハリをひねって再び胴に刺す

③ ▲このような縫い刺しになれば完成



▲フロートパイプ、マシュマロボール、フロートを組み合わせた寺田船長の特製仕掛け

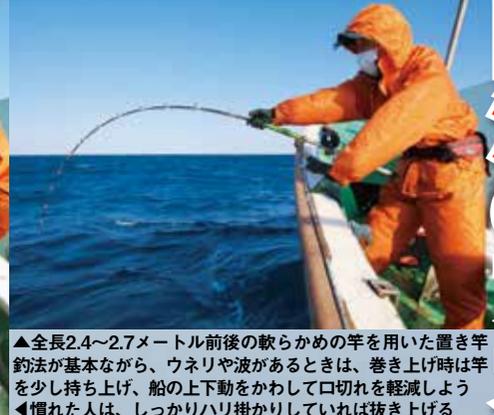
▲胴つき3本バリ仕掛け、オモリ250号が標準



▲赤色の水中ライトが効果的。白や青のライトはスマイヤキが寄るためNG



◀この日は30センチ前後がアベレージ



▲全長2.4〜2.7メートル前後の軟らかめの竿を用いた置き竿釣法が基本ながら、ウネリや波があるときは、巻き上げ時は竿を少し持ち上げ、船の上下動をかわして口切れを軽減しよう
◀慣れた人は、しっかりハリ掛かりしていれば抜き上げる

遠州灘福田港出船 撮影●本誌編集部 ご当地仕掛けとタナ取りが決め手 福田沖のアカムツ最高潮



◀取り込みは隣同士でタモでアシストしよう

▼ポイントの多くはカケ上がり。置き竿でもまめに底ダチを取り直してタナをキープしたい



地ではフロートが威力を発揮することが多い。
郷に入っては郷に従え。本編ではレポートとともに当地の仕掛けと釣り方をお届けする。
(詳細は58ページ参照)

関東近県のアカムツ釣り場の中では、トツブクラスの魚影を誇る遠州灘福田沖。首都圏から3時間で着く日帰り可能な釣り場だけに、産卵で群れが固まる5〜6月の最盛期を迎え週末には多くの釣り人が訪れている。
この時期、福田港の福徳丸が狙う釣り場は港の東西の沖に点在する180〜250メートルダチ。同船では、以前はテンビン仕掛けを使っていたが、現在は比較的オマツリしにくい胴つき仕掛けが主流になっており、全長4〜5メートルの3本バリ、オモリ250号が標準になる。
当地の釣り方の特徴は、底から5メートルの範囲を中心に、ときに15メートルもの高めのタナを狙うこと。こうした宙層を探るとき、アカムツ仕掛けに欠かせないマシユマロボールやフロートパイプなどのアピールアイテムに加え、当

▼福徳丸の船着き場は、福田港の太田川河口側の岸壁沿い



◎遠州灘福田港・福徳丸 寺田 桂司船長